

「日本は円安によって経済回復を実現しようとしている」。こうした見方が海外では根強いというところを、今回出席している欧州での会議でも感じた。しかし、こうした名目為替レートだけを見た議論は正しくない。アベノミクスの出発点はデフレ脱却である。デフレかインフレかというところであれば、名目為替レートではなく、物価を考慮に入れた実質為替レートに注目すべきである。

デフレ下では物価が下がるほど、一定の名目為替レートであれば、実質為替レートは円安になっていく。少し前に出た議論なので覚えておられる人も多いと思う



伊藤元重の

ニュースな見方

日本は円安志向なのか

が、1が80円という水準での企業の価格競争力も高くあっても、1995年ごろの80円とは状況が大きく異なる。95年から2010年の間に日本の物価は米国の物価に比べて40%ほど下がった。これを考慮に入れば、同じ80円であっても、実質レートは40%円安になっているのだ。

デフレが続くかぎり、その果の方が大きかった。これとして名目レートが大きく動かないかぎり、実質レートは着実に円安に動いていくことになる。日本の物価や賃金が下がる分だけ、日本が追求しているのが円安ではなく、デフレからの脱却、つまり物価や賃金が穏やかに、かつ持続的に上昇

が起ころうとしているのか。デフレからの脱却というコンテキストで考える必要がある。アベノミクスの下での大胆な金融緩和によって、名目レートが大幅に円安方向に動いたことは確かだ（円高の是正と言って

していくことである。そして一定の名目レートの下で物価上昇につながるものが期待される。そして、一定の名目レートの下で物価や賃金が上昇していけば、実質レートで見れば着実に円高方向に動いていくことになる。日本が志向しているのは円安ではない。一時的な円安はあっても、持続的に円安を維持する必要がある。政府も、一時的な円安はあっても、持続的に円安を維持する必要がある。政府も、一時的な円安はあっても、持続的に円安を維持する必要がある。

デフレ脱却進めば円高に

デフレが続くかぎり、その果の方が大きかった。これとして名目レートが大きく動かないかぎり、実質レートは着実に円安に動いていくことになる。日本の物価や賃金が下がる分だけ、日本が追求しているのが円安ではなく、デフレからの脱却、つまり物価や賃金が穏やかに、かつ持続的に上昇

海外で日本は円安政策をとっているのでは、という疑問が出るのは当然である。しかし重要なことは、日本が追求しているのが円安ではなく、デフレからの脱却、つまり物価や賃金が穏やかに、かつ持続的に上昇

経済学研究科教授
 次週から「伊藤元重の「学ぶ磨く」面に掲載します。

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。